

# 入園の喜び

櫻井勝三

親の喜び

不安

「駄目かも知れません」

と妻が力無く溜息をつく。その調子に通り込まれて私も覆ひきれぬ不安を感ずる。入學とか入園には必ず合否と共に不安かつき纏ふ。終日入園検定に附添ふた妻の述懐によれば、精神的發達の程度は「まあ〜」といふところだが、身體的方面の検定には全く自信がない。

「第一體が小さいし、痔せてゐるし、よその方のやうに元氣よく階段を上つたり下りたり出来ないし、鬼ごつこのジャンケンをして直ぐに駆け出さないし………」  
「………」

と、愈、不利な陳述をする。今後の養育上の決意をはのめかす。眞に悲壯である。

私も社交性がないのは陋巷に住ひ良いお友達  
達のなかつたせいかと考へて見る。

長女の發育狀態の悪いことは私達の最大の心配であつた。それでも三人の子供の中、一番丁寧<sup>に</sup>育て、最も細心の注意を拂つて育てた心算である。若いもののみ家庭では精一杯の愛育をした心算である。乏しい生活の中にも本當に丹精して育てたと云へるのは長女である。それが短身軀瘠今日の憂目をみるとは。

長男は發育程度は長女より良く、既に入園検定についても長女の経験により多少は免疫性も出来、少しは氣が樂であつた。然し妻は依然、

「よそのお子さんのやうに元氣に駈廻らないし、いつもの家での調子が出ないのです。」

と、長女の場合と同様述懐は憂色を漂は

す。

喜び

「綠殿検定の結果當幼稚園第二部に入園を許可いたします。」

急に世の中が明るくなつたやうな氣がし、肩の骨がゆるんだやうで、又急に空腹を感じ出した。ちつと葉書の文面を凝視し、繰返し讀んだ。晩には神棚に燈明を上げ、子供と共に神拜し心から神恩を謝した。

この喜びは子供の誕生の時の喜びを遙かに凌駕する。我が子が初めて世の試験にまゐて合格し、我が子の眞價を初めて世に問ふてそれが是認せられた。我が子が生を受けての最初の誠金石の試験に勝ち得たと思へば親の喜びは限なく深い。

長男の場合も亦その喜びは同様であつた。

入園後の我が兄の伸びゆく姿を見てゐる喜びは、入園を許可された時の激しさはないが、靜かな中にも力強く、徐々ではあるが遂に溢れるといつた喜びである。

子供の喜び

憧憬

漠然とではあるが附屬幼稚園に對して憧

懐を持つてゐる。運動會を見に行つたり、その他時々構内を訪ねる機會もあつたせい、入園の希望は持つてゐたやうである。

長女の

「女高師幼稚園はとつてもいいところ、早く行き度いなあ」と云ふ片言にも分る。

長男は長女の送り迎へに一緒につれ立つて時々行つたので、長女以上に附屬幼稚園に對する認識と親しみと心安さを持つて居つた。

そして長女と共に幼稚園に通ふものと決めてかゝつてゐた。絶えず長女の幼稚園生活を羨しがつてゐた。

然し長女、長男共に、入園検定日も、平常と大した變りなく、一日の緊張のせい、就寝が早い位のもので聊かの心配も不安も感じてゐない。これでこそ親も助かると思つた。又入園を許可された旨を教へても大した歡喜の情も現はさない。

順應

長女は入園當初は、生活形式が異り、又環境様相が變つて、而も小社會の成員として、その生活に緊張と努力を伴つたらしい。

そのため相當の疲労感を伴つて歸宅する日が續いた。勿論毎朝嬉々として勇んで家を出て行き、通園を心から喜んでゐた。然し環境に順應し切れず、警戒心、顧慮の極端から完全に脱却し得ないものゝやうに思はれた。不安もなく懸念もなく、全く環境と融合し得たのは一學期も終りに近づいた頃のやうに記憶してゐる。優しく又順應性を多分に持つてゐると思つてゐた長女の方が長男より環境に順應し切るには遅かつた。

これは男女の別と云ふよりも長女の何處か自我の強いやうに思はれることに基因する長女特有のものかも知れない。

長男の環境順應は長女に比し遙かに早く、旬日を出でずして環境に融合してしまつたやうに思はれる。長男はがむしやうで、仲々の強氣なのでお友達との折合が氣にかつた。然し反面妙に内氣のはにかみややでもあり一見矛盾した性格を具有してゐるやうでもあつた。入園當初の長男の行動につき長女が断片的の報告をもらす。

「今日段々(お部屋からお庭に出る石段)の處で指をくはへて立つてゐた」と孤立的生活を知らせる。

「今日は鳥小屋の前でぼんやりと鳥ばかり見てゐた」

と。無氣力に己自身鳥のやうにしよんばり佇立してゐる様子が私の頭の中の映幕に大寫しになつて明瞭に映じて来る。

「彬ちやんは今日も私のお部屋をのぞきにきた」と、報告する。「これは大部生活に能動性が現はれて来た」と密かに喜び安心する。

「今日ものぞきにきたし、世話が焼けて仕様がな」

と、長女がこぼす。「これは姉弟大部相互依存をやつてゐるな」と又安心する。

出だしはぎこつちなかつたらしいが、案外順調に短期間に、長女に比し五分の一位の期間で順應し切つたやうである。

歡喜

「幼稚園の生徒さんがそんなにぐずつていゝんですか」

と、たしなめられる頃になると、或る自覺と自尊心を持つようになる。「幼稚園の生徒さんが云々……」と、その體面を問はれるやうになると、本人達の幼稚園の生活は身につき、完全に順應し切つて、環境に適應